

# カナザワチケンボンポ vol.2

カナザワエキ・ヤスエショウ・ムサシガツジ  
タマガワショウ・オヤマショウ・コタリソボウ

金沢建築散歩 金沢駅・安江町・武蔵ヶ辻・玉川町・尾山町・香林坊



A もてなしドーム  
Motenashi Dome

これが、金沢らしさ

最近メディアでも話題にあがる金沢駅。伝統を継承していく歴史的都市でありながら、新しいものを取り入れ進化する金沢らしさが、アルミフレームとガラスを使用した最先端のドームと

## ホッコクギンコウ ムサシガツジテン

北國銀行武藏ヶ辻支店

HOKKOKU BANK  
MUSASHIGATSUJI BRANCH

村野藤吾若き日の貴重な作品

PICK UP  
KENCHIKU  
02



A 建築  
Architecture

武蔵ヶ辻を20mお散歩した建築

ココダケノ  
ハナシ

## JR カナザワエキ モテナシドーム・ツヅミモン

JR金沢駅 もてなしドーム・鼓門

JR KANAZAWA STATION  
MOTENASHI DOME・TSUZUMI-MON

金沢らしさを追求したおもてなしの玄関口

PICK UP  
KENCHIKU  
01

B アルミ構造材  
Aluminum Structure

緻密な計算の賛物

アルミ合金を構造材とし、それを補強するようにドーム内にはケーブルが張られています。中央部の星形のロッドで補強されたテンションリングソーパスルを組み立てるように、部材は吸収すべき場所に収まり、ドームを形成しているのです。

改裝後、1階には銀行の支店の機能に加えてカフェが併設。3階にはギャラリーが入りアートを楽しめる空間に。かつて使用されていた金庫扉もインテリアとして展示。内部でもかつての面影を感じさせ、楽しめる空間へと変わりました。

地下広場

イベントブースとしても  
もてなしドーム中央の大階段を下りると地下広場へとつながります。情報コーナーや中庭もあり、広場では雑貨市を行ったり演奏会を行ったりイベントブースとしても使われています。



B 内部空間  
Inside

機能も増え楽しめる建築に

今日はきれいな姿を見ている正面のシェルアーチ状の窓の銅製のレリーフ、過去には戦争中の鉄・金属の回収で一度失われていたことも、しかし再開発の際に作り直され、再度元通りに大切に受け継がれています。

D 鼓門  
Tsuzumi-Mon

デザインも機能性も  
構円柱に二重に配置された柱に格天井の屋根がおり、伝統的な寺院建築をイメージさせる鼓門。実は門としての機能だけではなく、柱の中にはドームに降った雨を再利用するための送水管や地下の排気口が造られています。その横のバスの乗降車場の屋根には太陽電池パネルを置き、電気を発電。機能を兼ね備えた環境を考えた設計でもあります。



A 外壁  
Wall

変化も計画の内



B 赤煉瓦  
Red brick

赤煉瓦のアクセント

大正から平成まで、1世紀もの歴史を刻んだ赤い煉瓦壁。赤煉瓦は歴史の深みや重みを感じさせながらもアーチ状の白いサッシが一本調子の煉瓦壁を軽やかに魅せています。

## タマガワトショカン

金沢市立玉川図書館

TAMAGAWA CITY LIBRARY

PICK UP  
KENCHIKU  
03



C 歴史  
History

時代を超えての融合

煙草工場として建てられた煉瓦造の棟が別館近世史料館、それに本館の図書館である新しく設計したコルテン鋼の外壁の棟が融合する形で建てられました。煉瓦造に木のサッシの窓の別館に対し、本館は正面のはめ殺しのガラス窓や玄関部のシルバーの円筒によって現代性を強調しています。二つの棟を繋げる本館の中庭ブリッジにご注目。本館部との間に別館の煉瓦棟の意匠を取り入れることで、外観の違う2棟を融合させています。



D 外部空間  
Outside

こだわりは細かなところまで

鉄筋コンクリート造3階建てでトップアーチと正面ファサードの構成、タベストリータイルの外観が特徴となっています。外観は手焼きの焦げ茶色のスクラッチャタイルを貼った直方体に、2階部分の高さを持つ大きな3つの表現的なシェルアーチ(泡弾型アーチ)がアクセント。アーチ内部の格子状の柵など、その装飾は目を見張るもので。

谷口親子の共同作品

金沢出身のモダニズム建築家の父と呼ばれる建築家谷口吉郎が監修し、その息子であるニューヨーク近代美術館などを手がけた谷口吉生が設計した、親子唯一の共同作品。



A 広坂緑地  
Hiroseka Park

何もない贅沢

元々石川県庁舎の建物が広がっていたところは、全面芝生の開放感溢れる広場に、金沢城の石垣側にかけて広場を山なりにしたこと、建物の眺望から、広場と石垣間の道路を隠し、緑が広がるよ



B リノベーション  
Renovation

身近になった元お役所

老朽化が進み、取り壊す計画だった旧県庁。しかし、古き良きものを残したいという想いから、一部分を残したりリノベーションの手法で生まれ変わりました。今ではお役所だった当時の面影も感じられる市民の憩いの場として多くの人に利用されています。



C 二つの顔  
Hybrid

2つの顔をもつ建築

表側は昔のままの煉瓦の姿でお出迎え。広場側は明かりを取り込み、景色を見せるガラスのニューフェイス、と、二つの顔をもつ。表側には、樹齢約300年にもなる堂形の2つの大きなシノキが今も昔も訪れる人々を見守り続けています。



D 親子共同作品  
Collaboration

ココダケノ  
ハナシ



D 構造  
Structure

ココダケノ  
ハナシ

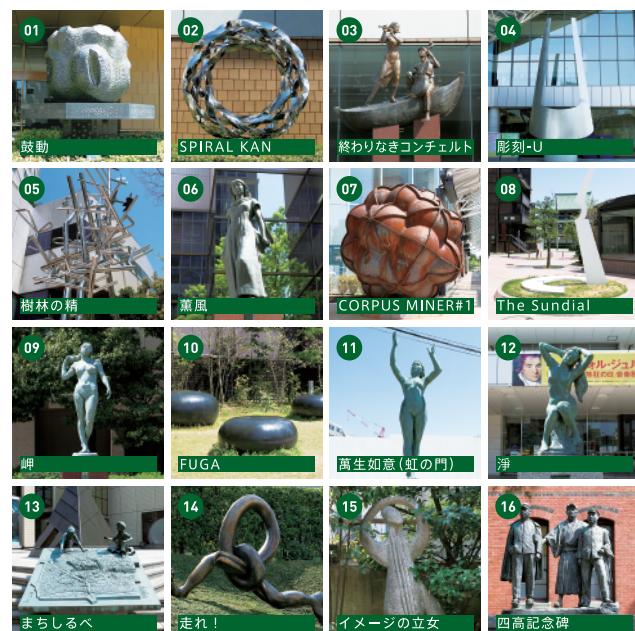
谷口親子の共同作品

大正時代に石川県で初のRC造として建てられた煙草工場の専売工場でした。煙草工場が別の土地に移動したこと、残った工場跡の一部を近世史料館としました。その建物に付随する本館を、

## たくさんのアートがあなたをお出迎え カナザワアートアベニュー

まち歩きの楽しみ倍増  
まちがいなし！

金沢アートアベニューとは、市民や観光客が散策しながらアートを楽しむ空間。2004年からは、「金沢まちなか彫刻作品コンペティション」が実施され、金沢から市中心部までの沿線を舞台に様々な現代アート作品が見られます。また、昭和43年ごろからも彫刻が設置されているなど、年代の違いによるパブリックアートも見ることができます。



## 疲れたら自転車で、スイスイ、ラクラク まちのり

まちとまちの移動におすすめのが自転車シェアシステムまちのり。乗り継いで移動するので停める場所にも困りません。歩くのも良し、漕ぐのも良し。



まちのりスポット  
公園めぐり！

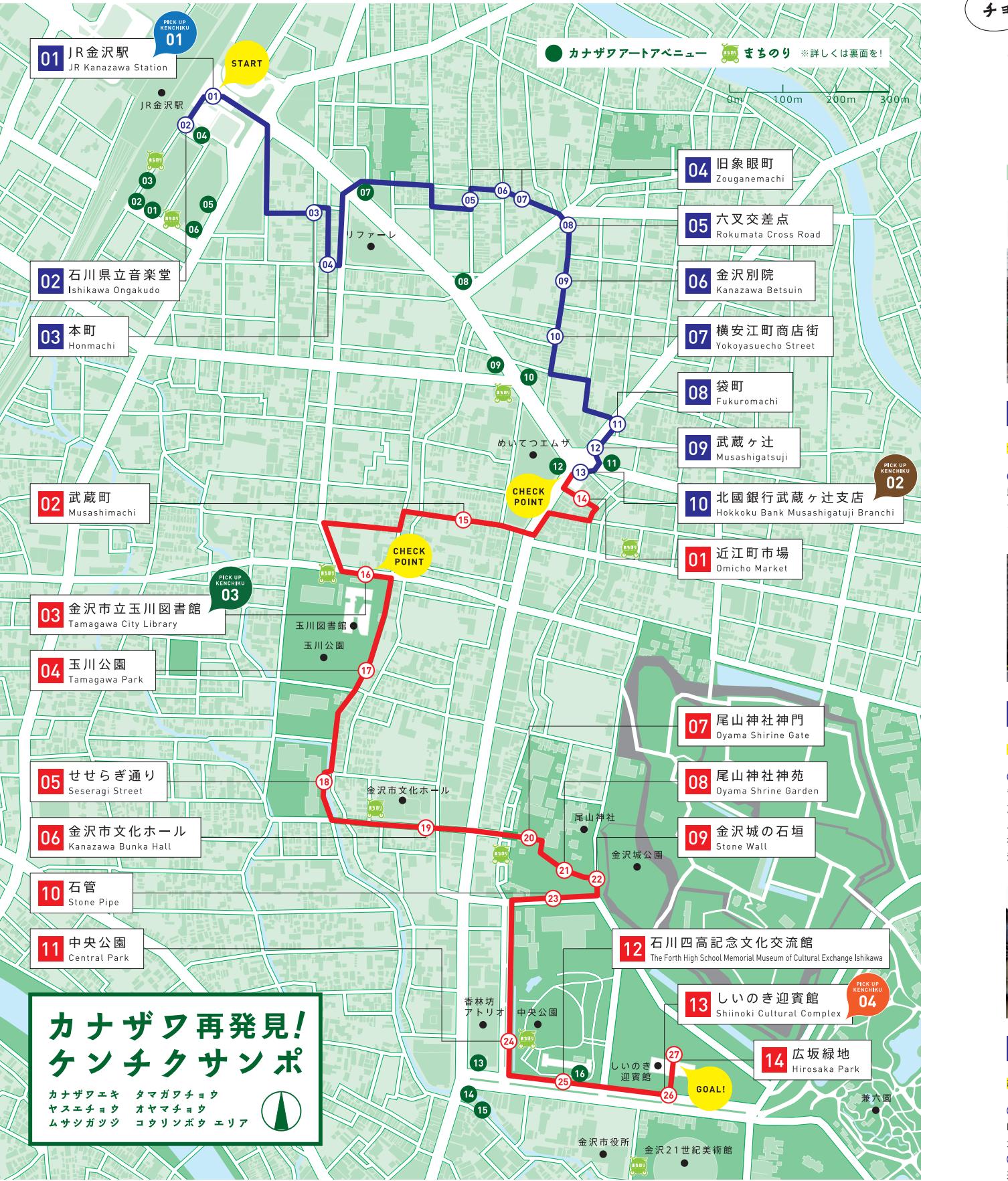
玉川公園 Tamagawa Park

本を読むのちょうどいい。

中央公園 Central Park

カナザワセントラルパーク。

まちなかの屋外イベント会場と言えばどこ。まさにセントラルパーク。市中心街地の線地率が高いのは珍しく、市民も木々たちも誇らしげ。再整備によって更に安全に、線も育ちやすくなりユーバーレル。お昼も夜も、お散歩にはもってこいのスポットです。



# エキからマチまで あるいてみよう!

KANAZAWA KENCHIKU SANPO  
ORIGINAL COURSES

カナザワケンチクサンポは過去から未来をあわむ小さな旅行です。建築技術の結晶である金沢駅、近代と現代の融合した建築群。金沢は歴史が重層するまちであるとともに、未来への歩調を導いてくれます。

時間の目安

歩道約60分

歩道約75分

金沢工業大学  
宮下研究室の  
学生が取材!



01 JR金沢駅  
JR Kanazawa Station

金沢の最初のおもてなしはこちら。

世界で最も美しい駅の一つにも選ばれた金沢駅。「弁当忘れても傘忘れるな」との言葉がある、雨多き金沢にて差し出されし雨傘、もてなしドーム。こちらの傘、アルミニウム合金建築物としては全国

最大規模を誇っています。それを支えるのは14メートルもの高さをもつ鼓門・送水管や地下の排気口を太い柱内に取り込み、どんどん構えて皆様のお迎えをさせていただいております。



01 近江町市場  
Omicho Market

わたしは6代目の現代っ子。

先ほど見えた大屋根は、京都の東本願寺の別院である金沢別院です。本堂は1546年に建立されてから6度も焼失。現在の本堂は、昭和37年に焼失した後の昭和46年に完成したコンクリート造の現代っ子。昭和32年竣工の大門と金沢指定保護樹の2本のイチョウの木は生き残りました。



06 金沢別院  
Kanazawa Betsuin

金沢の交通の中心。

北国街道に接し、昔から金沢の交通の中心となっていた武蔵ヶ辻。実はここ、昭和半ばには路面電車が走り金沢の中心地を繋いでいました。加賀藩政期から商業の街として賑わいを絶やすず、今も金沢駅と香林坊を繋ぎます。



09 武蔵ヶ辻  
Musashigatiji

金沢の交通の中心。

細い路地を抜けると、赤いレンガで明治の香り。マチカの玉川図書館に到着です。1913年に建てられた赤レンガ造の専売工場を、1978年に一部保存改修し、それに本館を増築させる方



03 金沢市立玉川図書館  
Tamagawa City Library

谷口親子共同作品。

法で建てられました。建築家谷口吉郎とその子谷口吉生の唯一の共同作品でもあります。赤レンガと融合させるために銀色の鉄骨や赤サビを使用して全体を統一しています。



07 横安江町商店街  
Yokoyasuecho

金澤表参道。

町の両端が行き止まりのようにコの字型に曲がっており、袋のような形状をしていたことからついたこの名前。一度は消えてしまった町名でしたが、平成19年に無事復興復縁。「旧」の文字が埋められた石碑を見つけたら、町名復活の証です。ほかにも探してみては。



08 袋町  
Fukuromachi

日暮町から袋町へ。

修復しても、建て替てもなお、みんなで芸術を揃えて並んであります。今話題の築100年越えのリノベ町家も、日本の伝統工芸象嵌(影金)職人が住んでいたことから付いたこの名前。その記憶を唯一繋ぐのがこの石碑。何これ、柵?とは言わせない、私は橋、巴橋!



04 旧象眼町  
Zouganemachi

巴橋、ここに在り!

金沢別院正面に位置する商店街。約300年前、淨土真宗金沢別院の門前町として商店が始まったのが横安江町街の始まりです。アーケードを脱ぎ捨て「金澤表参道」として生まれ変わったのが2006年。生活に密着したお店から、伝統工芸を扱うお店まで、ゆったりと営業中。



05 六叉交差点  
Rokumata Cross Road

六叉の交差点の片隅に。

近江町いちばの再開発で、曳家によって今の位置にお引っ越し。現在は、銀行、カフェ、ギャラリーとして、市民に愛されています。



10 北國銀行武蔵ヶ辻支店  
Hokoku Bank Musashigatiji Branch

逆ピラミッドの大屋根。

二つの棟の真ん中に逆ピラミッドがのっかるこの建築。1982年に中学校の跡地に建設されました。施設の中心を抜くことで、住宅街と街なかを優しく繋げています。現在は、銀行、カフェ、ギャラリーを通して、市民に愛されています。



07 尾山神社神門  
Oyama Shrine Gate

金澤の夜のシンボル。

まず目に入るこちらの神門、和洋中の三様式が取り入れられており、最上部には5色のギャラクシーマンによるステンドグラスが光ります。明治8年に完成した当初、神門の光はステンドグラスを通して、夜間日本海を航行する船にまで届いていたとか、昔から金澤の夜のシンボルでした。



06 金沢市文化ホール  
Kanazawa Bunka Hall

近江町いちばの再開発で、曳家によって今の位置にお引っ越し。現在は、銀行、カフェ、ギャラリーとして、市民に愛されています。



08 尾山神社神苑  
Oyama Shrine Garden

近江町いちばの再開発で、曳家によって今の位置にお引っ越し。現在は、銀行、カフェ、ギャラリーとして、市民に愛されています。



10 石管  
Stone Pipe

蒲原の水道跡。

かつて水便が悪かったために消火がうまくいかず全焼してしまった金沢城、同じ失敗を繰り返さないように人々は城内に水を引く工事を決意。土から顔出すこの石管。実は辰巳用水から兼六園、そして金沢城へと地下を通り、水を流していたもののものです。富山から水運された石は二千数百個と言われます。



01 近江町市場  
Omicho Market

1721年開設・金沢の台所。

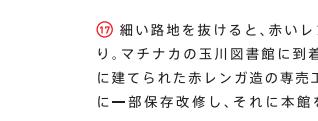
⑯天生8年(1580年)この場所で朝市が始まり、享保2年(1721年)市場が開設。金沢の台所と呼ばれてから290年の歴史をもつ近江町は、日本有数の市場。2009年の再開発で、昔ながらの市場の良さを残す今の姿となりました。正月の準備、お盆の買い出し、今日の晩ご飯、朝から夕方まで大にぎわい。海鮮丼は必須、満腹幸せ気分。

04 11  
は裏面へ



09 武蔵ヶ辻  
Musashigatiji

金沢の交通の中心。



09 金沢城の石垣  
Stone Wall

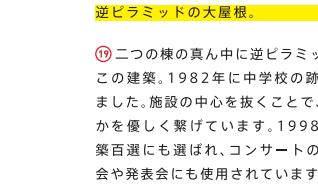
石垣の博物館・金沢城。

昔は昭和43年旧第四高校図書館として使われていました。日本近代文学館に次ぐ日本で2番目の総合近代文学館であり、赤レンガが積み上げられたファサードが特徴。ライトアップもされていて、夜道を楽しく歩けます。



13 しいのき迎賓館  
Shinoki Cultural Complex

歴史と現代の二面性をもったおもてなし。



07 尾山神社神門  
Oyama Shrine Gate

金澤の夜のシンボル。



14 広坂緑地  
Hirosaka Park

ついにゴール!さあ寝転びましょう。



見えるは空と木々と石垣。金沢のど真ん中だということを忘れて遠慮なく、これが今時カナダライフ。平日は市民の通勤路、休日は水上公園として、広坂緑地へと散歩コースとなっています。



02 武蔵町  
Musashimachi

裏手の生活感。

⑯武蔵ヶ辻の一本裏手に入ると、ちょっと落ちている雰囲気には生活の香りと商店の香りが入り交じっています。見渡せば長屋や大きなお屋敷に、古い蔵、隠れ家らしく繋がっているのが見えてくる場所です。

04 11  
は裏面へ



05 せせらぎ通り  
Seseragi Street

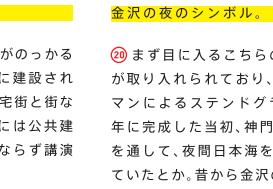
最新金澤まちなか用水ライフ。

⑯休になると歩道や自転車で、用水の水音に誘われるようサンボする人がいっぱいのせせらぎ通り。リノベのお店が建ち並び、古くて新しい価値を発見できる街。美味しいパンも、なんだか気にならぬ本も全てここにあります。



06 金沢市文化ホール  
Kanazawa Bunka Hall

逆ピラミッドの大屋根。



07 尾山神社神門  
Oyama Shrine Gate

金澤の夜のシンボル。



見えてるは空と木々と石垣。金沢のど真ん中だということを忘れて遠慮なく、これが今時カナダライフ。平日は市民の通勤路、休日は水上公園として、広坂緑地へと散歩コースとなっています。

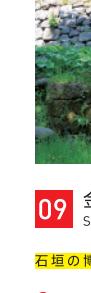


08 尾山神社神苑  
Oyama Shrine Garden

静けさ漂う穴場スポット。

⑯さてさて、尾山神社は神門のある正面入り口は有名ですが、裏手の入り口はあまり知られていません。正面とはガラリと雰囲気を変え、静けさの中へ足を進めると、鳥の鳴き声や風の音に気分もおだやか。ここ、穴場です。庭園の各部は楽器から兼六園、そして金沢城へと地下を通り、水を流していたものの名前がついており、笙島や琵琶島など雅楽の響きが聞こえてきそうな趣。

04 11  
は裏面へ



09 金沢城の石垣  
Stone Wall

石垣の博物館・金沢城。

昔は昭和43年旧第四高校図書館として使われていました。日本近代文学館に次ぐ日本で2番目の総合近代文学館であり、赤レンガが積み上げられたファサードが特徴。ライトアップもされていて、夜道を楽しく歩けます。



12 石川四高記念文化交流館  
The Forth High School Memorial Museum of Cultural Exchange Ishikawa

日本で二番目の総合近代文学館。



見えてるは空と木々と石垣。金沢のど真ん中だということを忘れて遠慮なく、これが今時カナダライフ。平日は市民の通勤路、休日は水上公園として、広坂緑地へと散歩コースとなっています。



10 石管  
Stone Pipe

蒲原の水道跡。

かつて水便が悪かったために消火がうまくいかず全焼してしまった金沢城、同じ失敗を繰り返さないように人々は城内に水を引く工事を決意。土から顔出すこの石管。実は辰巳用水から兼六園、そして金沢城へと地下を通り、水を流していたものの名前がついており、笙島や琵琶島など雅楽の響きが聞こえてきそうな趣。

04 11  
は裏面へ



13 しいのき迎賓館  
Shinoki Cultural Complex

歴史と現代の二面性をもったおもてなし。

⑯大正13年に建てられた旧石川県舎が、コンバージョンにより人々をもてなす文化施設へ生まれ変わりました。特徴は、大きな2本のしいのきが映える旧県庁の顔を残した正面と、金沢城側の大ガラス張りのファサード。歴史的な面と現代的なデザイン面は、古き歴史ある金沢と進化を続ける都市金沢の二面性を表しているのです。館内も新古が混ざりかなりハイカラな仕上がりに、金沢城の石垣を眺めつつお茶もできちゃいます。



14 広坂緑地  
Hirosaka Park

ついにゴール!さあ寝転びましょう。



見えてるは空と木々と石垣。金沢のど真ん中だということを忘れて遠慮なく、これが今時カナダライフ。平日は市民の通勤路、休日は水上公園として、広坂緑地へと散歩コースとなっています。